

平成 29年度 第2回能勢町子ども・子育て会議
～議事録～

日 時：平成 29年12月26日(火)10:00～12:00

会 場：能勢町保健福祉センター1階 集団指導室

出席者：小島会長・樺山副会長・八木委員・三浦委員・中谷委員・市村委員・萱野委員・
後藤委員・斉藤委員・木村委員

【計 10名】

傍聴者： 2名

事務局：健康福祉部 瀬川部長・花崎福祉課長・西村保育所長
大植福祉係長・倉中福祉係主事・藤原社会福祉士、
古嶋家庭教育支援専門員
教育委員会 寺内教育次長、辻学校指導課長、古畑生涯教育課長

- 次 第：1. 開会 司会：花崎課長
2. 議事 議長：小島会長
(1) 能勢町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
(2) コミュニティ・スクールについて
(3) グループ討議
(4) その他
3. 閉会

司会	<p>そうしましたら、あらためまして委員の皆さんおはようございます。朝早くからお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。年末の何かとお忙しい時期にかかわりませず、繰り合わせご出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻 10 時となりましたので、只今から第 2 回能勢町子ども・子育て会議をはじめさせていただきます。</p> <p>あらかじめ本日お手元の参考資料①のとおり、寺裏委員、宇佐美委員、出水委員、上佐古委員そして、関係機関の田村さんが本日欠席のご連絡を頂戴しておりますので、ご報告を申し上げたいと思います。</p>
司会	<p>それでは、開会にあたりまして、小島会長よりご挨拶を頂戴して進めてまいりたいと思いますので、よろしく願います。</p>
会長	<p>あらためまして委員の皆様おはようございます。数日間、ちょっと心地よくと思っておりましたが、また、今朝は霜が降りましてとても寒うございます。そして、事務局の方よりお話がありましたように、本年余すところ今日を含めて6日というたいへん皆様方にとりましても気忙しい本日であろうかと思っております。本日は第 2 回の子ども・子育て会議ということでたくさんの皆様方にご出席をいただいておりますこと厚くお礼申し上げます。</p> <p>さて、子どもたちはとっても楽しい冬休みに入りましたし、冬休みやお正月で楽しみはいっぱいあふれているこれがすべての子どもにあ</p>

	<p>ればいいんですが、ここ数日前からはほんとにわたしたちの近い場所、箕面市でほんと悲しい出来事がそして昨日の講演会で聞きましたところ、39歳までは若者というのですが、30何年間ほんと両親のところで軟禁状態にされていたりとか、私たちの見えない部分で、楽しいはずの子どもたちがいろんな目にあっています。あるとき、今日ラジオに耳を傾けていると、このクリスマスは子どもも楽しいと思っているようですけれども、特に子育て世代の方、あるいはシングルマザーの方等にとっては、こんなクリスマスなかったらよいのになあ、なんでやろうと思っている方が40数パーセント、でも子どもには何の責任もありません。子どもは楽しくて仕方ないはずです。そんなことを考えると、今私は皆さんと一緒に考えているこの会議こそ、ほんと子どもにとっては大事な会議だし、すべての子どもに幸せ、そしてすべての子どもに温かさ、そしてその先頭を能勢町がきれたら、能勢町の子どもって幸せやなあ、子どもたちは能勢町に生まれてきてよかったな、そんな思いをもっているかと思いますが、子どもは正直ですから、大人の背中をみて育ちます。だから大人がこうありたいなと願えば子どもも答えてくれるでしょう。今日の会議はいろいろありますけれども、事務局から今取り組んでいただいていること等々、お話を伺いまして一人でも多くの子どもが能勢町に生まれ、能勢町で育ち、よかったなあ、お母さん方も楽しく子育てができたなあ、そんな地域をめざしていく会議を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。それでは会議に入ります前に、本日の会議につきまして、お手元にお配りをしております次第に基づきまして、それぞれ案件をご用意しております。概ね正午までの間に活発なご意見、意見交換をさせていただけたらと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは会議に入ります前に、まず資料の確認をさせていただきたいと思います。お手元に本日資料1、資料2ということでお配りをさせていただいております。資料1につきましてはA4ホッチキス止めの資料、それにそれぞれ参考資料としてチラシ等を添付させていただいておりますけれども、また会議進行中に不足等がございましたらお申し出いただきましたら、対応させていただきます。それと資料2これもA4ホッチキス止めでございますけれども、コミュニティ・スクール関係の資料ということですのでけれども、以上で本日進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それではこれ以後の会議の進行につきましては、本会議の設置条例第6条の規定に基づきまして、会長に議長をお願いしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、案件①能勢町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況につきまして、事務局より説明を頂戴したいと思います。</p>
<p>事務局（福祉課）</p>	<p>そうしましたら、案件1能勢町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況につきまして、資料1の子どもが創る明るい未来推進事業の取り</p>

組み状況をもとに説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。座らせていただいて説明をさせていただきます。29年度の実施状況というところで、先の第1回の会議におきまして、子ども・子育て支援事業計画の進捗の状況について前のご説明をさせていただき、今年度についてはこの子どもが創る明るい未来推進事業に取り組んでまいりますということで、ご説明をさせていただきました。この12月までの取り組みの状況をご報告をさせていただきたいと思っております。この事業につきましては28年度に実施いたしました子どもの生活に関する実態調査結果を踏まえつつ、次の3つの視点切れ目なくつなぐ、教育と福祉の連携、地域とのつながりという3つの視点をもって取り組みをするということで、3か年計画ということで平成29年度を初年度として29年度、30年度、31年度、3か年で取り組んでいこうということで展開をしていくというものでございます。この事業を進めるにあたりまして、保健福祉センターにおきましては、29年4月1日に子どもの未来応援センターを設置させていただきました。この子どもの未来応援センターにつきましては、平成29年4月1日の母子保健法及び児童福祉法の改正も踏まえ位置づけとして子育て世帯包括支援センターと児童家庭等に対する拠点という位置づけをさせていただいているものです。子どもの未来応援センターの設置要綱を資料1の5ページ、6ページにつけさせていただいておりますが、きっちりと要綱を整備し、設置をさせていただいたものでございます。特記すべき事項といたしましては、第3条で子どもの未来応援センターで取り組む業務を記載させていただいておりますけれども、内容については母子保健と児童福祉、加えて家庭教育支援にかかる事業をこのセンターで展開するというにしています。またこのセンターは子育て支援担当課（福祉課）、と母子保健担当課（健康増進課）をもって構成するということで2つの課が連携をして取り組むものとしております。

6ページをお願いします。また、子どもの未来応援センターは関係機関の連携ということで、この保健福祉センターの福祉課と健康増進課のみならず、教育、保育、医療といった関係機関と連携をし、また、地域社会との連携を図りながら取り組みを進めてまいりたいと考えているところでございます。また、第8条には当然秘密の保持ということで、守秘義務についても規定をさせていただいておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。すみません、資料ですけれども、添付の資料にこちら子どもの未来応援センターというチラシがございます。後ほど個々具体的に事業については説明もさせていただきたいと思っておりますが、子どもの未来応援センターでは、こういうことをしていますということを知りやすく、子育て中の保護者の方にわかっただけならということで、配布をさせていただいているものでございますのでまたご覧いただけたらと思っております。

すみませんが資料の1ページに戻っていただきまして、子どもの未来応援センターの3匹のひよこの絵がありますが、これはいつも応援

カードということで最近つくらせていただいたカードの表面、裏面と
なっています。こういう応援センターがあるということで、周知を
図っていくカードを保健福祉センター、役場等、また、町内の医療機関
とか保護者、子育て中の方がよくいかれるようなところに設置をさせ
ていただいて、周知をさせていただいています。今後このカードをも
ってたら、何か付加価値がつけれたらと今検討をしているところです。
協力していただける企業さんとかありましたら、このカードを提示し
たら何か特典がついてくるようなことが能勢町でもできないかとい
うところで、検討をさせていただいているところです。

資料の1ページ最後の3行のところですが、この子どもの未来応援
センターでは、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供
しており、主な事業としてこれまでもご説明をさせていただいており
ますけれども、主に家庭教育支援事業、子ども子育て支援事業、子育
てつながり支援事業を中心に取り組みを進めさせていただいていると
ころです。

現在の取り組み状況について説明をさせていただきますので、2ペ
ージをよろしくをお願いします。まず、一つ目でございます。この家庭
教育支援事業は、健康福祉部と教育委員会が協働で取り組んでいる事
業です。子どもの未来応援センターに家庭教育支援チームをこの4月
より設置をしている。家庭教育支援チームにおきましては、家庭教育
専門員が1名、また支援員として8名の方が支援チームとして取り組
んでいただけてまして、家庭教育支援チームの名前は「ほっこり」と
いうことで取り組んでいます。この家庭教育支援チームによって家庭
の訪問をさせていただくのですが、その際には家庭教育情報誌「ほっ
こり」をツールとしてもっていくということにして、就学前の児童(年
長)及び小学校低学年1年生から3年生の全家庭の訪問をして、各家
庭とのつながりを大切に、関係の構築を目指しているところです。
添付の資料に1学期、2学期訪問の際に配付させていただいた家庭教
育情報誌「ほっこり」をつけさせていただいていますので、ご覧いた
だければと思います。訪問の実績ですが、1学期は対象となった家庭
は159家庭で、そこにご家庭の方に何らかのアプローチができたの
が、148家庭、2学期の対象が161家庭でアプローチができたの
が157家庭で、9割以上のご家庭に対して保護者に対して面会がで
きたということです。特に2学期については、ご両親の方にできる限
り、お会いできるような形で、支援員さんに回っていただいたところ
です。その他ですが、今年度からこういう訪問を始めたのですが、訪
問するに際して事前に、幼稚園、保育所また小学校から支援員さんが
訪問することを事前に周知をさせていただきましたので、訪問に際し
てそれほどトラブル等はなく、訪問はできたと考えています。また、
家庭教育支援事業におきましては、メインとしては対象となる家庭訪
問でございますが、その他、家庭教育支援員会議というものを実施し
ており、訪問前、訪問した後に情報の共有をしています。また、家庭
教育支援員さんのスキルの向上というところで、各種研修会には支援

員さんには参加していただいています。また、後に説明をさせていただきますけれども、子どもの居場所づくり事業とか各種事業にもボランティアとして支援員さんには参加をしていただき、地域とのつながりに努めていただいているところです。また、この家庭教育支援事業でいろいろと家庭とのつながりを構築するにあたって、関係機関との連携をしております。学校、教育委員会、母子保健担当、保育所等、訪問したことについて可能な範囲のなかで情報共有もさせていただいております。加えて、家庭教育支援事業のなかで親学習講演会というものも実施しております。8月20日には豊中社協の勝部麗子さんに来ていただいて、子ども・若者を支える地域づくり講演会を実施しております。また、2月17日には子どもの生活実態調査の際にお世話になった大阪府立大学の教授の山野先生にも講演会をしていただく予定になってまして、そのチラシですが今回添付させていただいております。8月に実施した勝部さんの講演会のチラシ、今度2月17日に開催する山野先生の講演会のチラシを添付させていただいておりますので、またご覧いただければと思います。先ほど小島会長から冒頭にご挨拶でありましたけれども、箕面市で昨日悲しい事件がございました。能勢町におきましてもまったくそのようなリスクはないとは言い切れません。そういうところで、家庭教育支援のなかで、仮に訪問するときに、そのようなサインに気づけば、要保護児童対策地域協議会とも連携を図っていけたらというところで考えています。

2ページの下のところにつきましては、福祉と教育が協働・連携した子育て家庭教育支援体制ということで、これは以前からみていただいている図でございます。少しずつではありますがここにあるように各種機関が、有機的なつながりを展開できればと事業に取り組んでいるところです。

資料の3ページをお願いします。②子どもの居場所づくり事業でございます。こちらにつきましては様々な背景を有する子どもに必要な環境整備と、教育の機会均等を確保するための居場所づくりもこちらで教育委員会及び関係団体が連携し、パイロット的に実施しているところです。29年度はいわゆる試行の段階で30年度以降、どのように展開すればよいのか、学校または地域での居場所づくりをどのように作っていくのか、また、その居場所づくりが単発でなく持続的に展開していくにはどうしたらよいのかというところを現在検討しながら試行的にしているところです。今年度の取り組みの状況ですが、まず夏休みの元気広場ということで7月25日、26日、28日の3日間、場所はささゆり学園ということで、午前10時から午後1時までの間、対象は小学生、出前プログラムと昼食の提供ということで事業を実施しました。参加の状況ですが、初日の25日が39人、2日目が46人、3日目が45人という参加でした。加えて夏休みには学習会を実施し、これは勉強だけということで、8月20日と21日の2日間、午前10時から正午までの2時間ということで生涯学習センターで実施したところです。こちらについては参加は9名と10名と

いうところですが、次に冬休みの元気広場は昨日25日に開催し、次は1月5日に予定していますが、こちらについては夏休みの元気広場と学習会の実施を踏まえて、どうしても参加してもらいたい児童さんにどうすれば参加してもらえるのかというところも含めて、どういふふうに周知をしたらよいか工夫をしたうえで、事業を実施しています。1回目昨日は61人の申し込みがあったのですが、病気等の欠席もあり昨日は54人の出席になっています。1月5日の申し込みは49名あり、50名近く参加していただけるものと考えているところです。次に関係団体の居場所づくり事業というところで、能勢町子ども会育成会さんが取り組みを進めていただいております、夏休みリクリエーション、また、1月21日には冬のレクリエーションの事業を展開していただきます。これらについては、いろいろチラシを多く入れているのですが、それぞれの周知をさせていただいたチラシの方を添付していますのでご参照いただければと思います。

また、関連事業というところで居場所づくり事業という名目ではないですが、能勢町民生委員児童委員協議会さんと町が共催する形で、子育て講演会「劇団かっぱ座人形劇 in 能勢」、また、今度3月に子育て講演会「家族で楽しむ落語会」これは能勢町、能勢町教育委員会、子ども会、PTAが連携する中で取り組みをするということになっています。すみません、先ほどの「劇団かっぱ座人形劇 in 能勢」につきましては民事協と能勢町の共催ということになるのですが、能勢町人権協会の後援をいただいております。多くの団体が協力していただくなかで、能勢町全体で子どもの居場所、子育て支援の取り組みを展開しているところですのでご報告をさせていただきます。

すみません資料の4ページをお願いします。子育てつながり支援事業でございます。こちらにつきましては、福祉部のなかでも母子保健の担当が中心となり事業を展開しています。まず、一つ目の「のせっ子未来応援ナビ」なんですが、これは子育て支援モバイルサービスということで、スマートフォン等で登録をいただいたら、いろんな予防接種や乳幼児健診の案内等、子育て情報の提供をさせていただいています。本年6月1日にスタートしています。12月13日現在の登録者数は、119名というところで、なかなかつながらないご家庭もこれに登録をいただいたら情報がつながるというようなところ、また、なかなか出てこれないご家庭についても、こういうところからアプローチをさせていただいて、いろいろな取り組み、事業等に出でさせていただくというところで、活用できたらよいと考えているところです。こちらにつきましても応援ナビのチラシをいれています。できる限り登録者数を増やしていきたい、妊娠されて母子手帳を取りにこられた時には必ず登録の方をお願いをしていますが、現在、6月1日から始まったものですので、すでに子育て中の方でもできる限り登録していただきたいということで周知を図っています。

次に、母と子のりらくすたいむ「tsu★do★i」ですが、これは毎月1回、母と子の居場所づくりをするということで開催をしているも

のです。こちらに記載しているとおり、妊娠期から子育て期にある母親等を対象に体験講座、交流の機会を通じて親同士のつながりを促進させることにより、育児によるストレスの解消を図るとともに子育て期における世帯の孤立を防止するために取り組みを進めているところです。チラシの方を入れさせていただいております。このような形で毎月1回内容を変えて楽しくお昼ご飯もあつての参加をしていただいているところで、参加者数が12月の開催までで360人、9回分ですので平均40名、子どもさんお二人連れて来られる方もいらっしゃるかもしれませんが、おおよそ20組程度の親御さんが毎回平均して参加をしていただいているところです。

次に、保健師の専任担当制ということで、保健師の専任担当制を導入することによって、これも関係づくりに力をいれるということで、このような形で取り組みを展開しているところです。

4ページの下のところ、2番、平成30年度に向けた取り組みの方向性ということで、今、12月まで事業を展開してきているなかで、来年度どういうふうなことが考えられるか、というところで現在検討している項目をこちらで記載をさせていただいているところです。まず、家庭教育支援事業においては、やはり学校、関係機関との連携強化が必要ではないかということで、特に現在大阪府により配置をいただいているSSW（スクールソーシャルワーカー）、SC（スクールカウンセラー）なのですが、これは大阪府の予算によって配置をしてもらっているのですが、町単費を確保してでもその人数を増やすことはできないか、現在検討をしているところです。先ほども若干説明をさせていただきましたが、子どもの居場所づくりの拡充というところですが、学校を中心としてやっていくのか、地域に展開していくのか、また、学習支援というところで、どのような形が望ましいものなのかというところを現在考えております。そういうところで30年度につなげていきたいなと考えております。よろしくお願ひします。また、子育てつながり支援事業については5歳児検診が実施できたというところで、今検討をしているところです。5歳児の時に健診をすることによって、その子どもがもっている特性を早い段階から確認ができるのではないかと、5歳児の健診が実施が可能かどうか今検討しているところです。すみません資料1につきましては以上でございます。よろしくお願ひします。

会長	ありがとうございました。只今、事務局より平成29年度の子どもの明るい未来推進事業の実施状況についての説明がございました。まず、説明のなかでご質問等々ございましたら、お伺ひしたいと思ひます。いかがでしょうか。
会長	ありませんでしょうか。そしたら、また後程もいろんなことで討議をしたりしますので、そのなかで、もしも出てまいりましたら、ご意見も伺ひたいと思ひます。今のところないようですので、続きまして、案件②コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について、事務局よりご説明を伺ひたいと思ひます。

皆さんおはようございます。教育委員会学校教育課の辻でございます。それでは、コミュニティ・スクールのことについて説明をさせていただきます。資料の方は2になっています。学校再編平成28年からやっと2年目の学校になってきて、今、学校の方でも充実した活動を進めていただいております。能勢町の学校は学校再編するまでなんですけれども、地域とほんとに密接に地域とともに歩む学校ということで、最終的には西側に3校東側に3校というところで、最終の再編前の学校としては一番少ない天王小学校で4名でしたし、それから一番多い久佐々小学校では160名程度、ということで、東の3校は50人に満たない学校でした。それから中学校においてもほんとに西と東で3対1くらいの生徒人数に開きがあったりしてましたので、その歴史が140年間ずっと続いてきたというところで、ほんとに地域の方々の学校、歌垣、東郷、田尻、久佐々、岐尼というところで、なじみのある学校だったと思います。そのなかでたとえば、夏休みの清掃作業とかがあれば、地域の方々が朝早くから植木を切りに来られたりだとか、おらが学校という形で表現されるように、みんなの馴染みのある学校だったのですが、この少子化の波で現在、330名程度の小学生と200名の生徒というところになるのですが、540名弱の児童、生徒が能勢の小中学校に通っています。ですので、関係の深かった学校が少し関係がなかなか薄くなりつつなるのかなというところで、通学方法についてもバスで通ってきたり、徒歩通学、自転車通学の子はいるんですけども、そのようなかま進めてきています。

地域の子どもたちはどうしているのかということですけども、生涯教育課の方でもずいぶん検討をさせていただいて、やはり新しい学校になっても、やはり地域の子ども会とか、体育連盟とか、そういった組織、地域教育協議会とかそういったものは今までどおり残していこうと、地域の子は地域で育てていこうというところで、能勢の様々な社会教育に携わる方々は旧校区のなかで活動をされて、自分たちの地域の子は地域で育てようと継続して行われています。それは子どもたちにとったらとてもいい居場所になっているのかなと思いますけれども、学校が一つになったことによって、やはり子どもたちが増えた、教職員もクラスあたり20名から30名の子どもたちをみたり、そういったことをしますので、とても今までと違ったような能勢の丸ごと全部抱えているというところで、多忙なこととかいろんな子どもたちがはいてくることによる変化もでてきています。そんななかで、やはり、子どもたちに能勢らしい教育、能勢らしい学校の姿をどんなふうに引き継いでいくのかと言ったときに、例えば、コミュニティ・スクールというのは大切なもので、この2年間、導入促進事業を平成28年度と平成29年度で続けてきました。このなかで一人は学識といいますか、大学の先生にもお世話になりながら、これまで地元の小学校の校長先生、PTA代表、それから今現在学校支援地域本部ボランティアとして今の新しい学校のアフタースクールとか、そういったことを手伝っていただける方、あとは学校の校長先生以下教職員等

で、教育委員会事務局も入って2年間この導入促進事業を進めてきています。

地域の方々にもたいへん小学校のなかでは生活科とか総合的な学習で地域の方にも授業のなかで参加していただいたり、例えば、1年生でしたら歌垣山に今年は登って、詩をつくって歌垣山顕彰会の方にお世話になって登山したりとか、2年生であれば花いっぱいプロジェクトということで、地域の社会福祉関係の協議会に来ていただいて一緒に花を植えてその花を主な団体の方に持っていったり、3年生は地域の栗や、そういった産業について地元の方に来ていただいて銀寄栗の話を聞いたり、4年生は地元のため池とかそういったことを学んだりとか、三草山に登山をしたりゼフィルスの勉強をしたり、5年生では学校の近くに田んぼを借りて米作り等を進めたり、6年生は鹿角座の人形浄瑠璃等をしながら学習発表会で発表したり、そのようなことで小学校の方では地域とともにというところの学習自体がそういう形になっておりますので、そういう学習は継続してやっております。中学校におきましても運動、部活動ということで、部活動で地域の方々にボランティアをしていただいたり、それから中学2年生では職場体験学習ということで、地元の方々のところに行ってお話を伺ったりとか、そういった様々な能勢にかかわる学習も継続して行って、このひとつの取り組みを「グローバル能勢」という切り口で能勢町では進めています。

そうなったときに、今後、コミュニティ・スクールを導入していくなかで、やはり、今のささゆり学園の小中学生がこれまでの学校どおりに今の学校を「おらが学校」というように思っていけるかどうかというところが、コミュニティ・スクールを導入して今後自分たちのささゆり学園だと思えるような学校になっていくために、どうしていったらいいのかなというところを、この間話し合ってきました。それで、導入の経過としましては、昨年度は委員さんに、例えば先進地の徳島県の東みよし町というところで実際にコミュニティ・スクールを導入されているところから、コミュニティ・スクールのマイスターの方に来ていただいて、実際に研修をしました。そのなかではやはり、先進地の方ではコミュニティ・スクールを導入することによって、例えば、役場の首長部局と社会福祉協議会等が連携をしながら、子どもたちの地域の防災の勉強ができたりだとか、それから、夏休みの支援をこちらの方は、今年から能勢でもやっていますけれども、月1回の給食を子どもたちと食べたりとか、そのような取り組みの紹介がありました。でも、やはり課題としては、参加される人が固定されている。人材の開発がなかなか進まないだとか、先生方の多忙的な部分をどう解消していくのとか、というところを課題としてあげられてました。

それから一昨年ですけれども、京都の大原学園にもお邪魔をして、ここでは地域を知り尽くした人たちが学校のお世話をされている。ここで言うと能勢の小さな学校、天王とか田尻とかそういうサイズの学校の取り組みだったんですけれども、先生方は転勤するけれども、地

域の人は転勤せずずっとそこにいる、だからそういうスタンスで地域の方々がこんなところで先生が学びを教えてほしいという思いで、コミュニティ・スクールの会長さんはお話をされてました。今年につきましては、岐阜の方にコミュニティ・スクールの大会がございましたので、こちらの方に参加をして、そのあと小学校の方にも委員さんと教職員の方で行ってきたんですけども、そちらの方の取り組みでは、10年かけてやってきました。地域安全とか、行事とか、学びとかその3つの部会で10年がかりで今の形を作り上げてきたので、いきなりなかなか難しいということも、そこで学んできましたし、ぼちぼち能勢は能勢でやっていけるものを作っていったらどうかということも委員さんから意見をいただきましたので、そこでの取り組みでは、例えば地域の方々が、交通安全教室を地域の方々が丸ごとされているとか、防犯教室も警察と地域の方々が連携して丸ごとやられている。学校のなかに入ってきて、先生の仲立ちではなく地域の方の仲立ちで、学校行事はされていることの報告はありましたけれども、一度にはこういうことは難しいなという思いで帰ってきました。そのあと、コミュニティ・スクールの学習会等を兵庫教育大学の先生に来ていただいて研修をしたり、そのあと、区長会の方でも教育委員会の方からコミュニティ・スクールの在り方を相談したり説明をさせていただいたり、12月には保護者の方にもコミュニティ・スクールの制度の説明会のチラシを配布したり、PTAの会長さんにもお話をさせてもらっています。1月には町の広報にはこのコミュニティ・スクールについて載せているんですけども、そしたらコミュニティ・スクールとは一体何なのか、というあたりがこの理解をしていただくことがとても大切なのかなと思います。

今現在、ずいぶんこの取り組みを能勢の小中学校で行われています。例えば、放課後に子どもたちの居場所があって、そこでアフタースクールが行われていて、地域の方々のボランティアの方々にお世話になって、自然の遊びをしたり工作をしたりスポーツ体験があったり音楽体験があったり料理づくりがあったりしています。中学生の方も学習塾があったりで、そういうふうな取り組みは学校再編とともに導入しつつあるんですけども、今後、一体そしたらコミュニティ・スクールでどんな学校にしていきたいのかというあたりで、各委員さんにお話をさせていただいたというところでは、やはり、今、地域と学校の関係が再編によって遠くなりつつあるなかで、やはり能勢の子どもたちを学校の先生だけで育てるのはなかなか難しい。家庭と学校と地域の方々と、子どもたちをどんなふうに育てたらいいのかというところを、これはいろんな方々とお話をするなかで、すすめていかなくてはいけないのかなということで、例えば、学校からはこんなところで地域の方にお手伝いをいただきたいというときがあったときに、学校から出てきた意見としては、例えば一緒に掃除をする時間があったらいいとか、給食と一緒に食べれる機会があったらいいとか、あと、家庭科で裁縫するときにごく手がかかるのでそういう

裁縫のお手伝いをしていただけませんかとか、それから、マラソン大会で能勢中学校の方は、東郷地区でやっているのですけれども、そのマラソン大会のお手伝いとして、地域の方に立っていただいたり、給水のポイントでお手伝いをしていただけたらいいとか、そんなこともやっておりまして、学校の方も最近働き方改革ということで、超過勤務が増えたりするなかで、いろいろ地域の方にお手伝いしてほしいなあと思っていることもあるようです。

ただ、新しい学校がセキュリティがとても強い学校になったので、昔の学校のように先生来たでと簡単に入れる学校でなくなりました。そのあたりのセキュリティの問題からしてどんなふうに学校の敷居を下げて地域の方に行き来していただけたらいいのかということもここは意見がでておりました。保護者の方はどうかというと、保護者の方々についてはやはり、子どもにしっかり勉強の力をつけてほしい、それから、これからの社会を生き抜いていくコミュニケーションの力をしっかりつけてほしいといった保護者の思いをもっておられますので、学校の様子をできるだけ教えてほしいというのが保護者からのご意見でした。

コミュニティ・スクールといっても保護者の方、地域の方がなかなか来ないというのがあったので、先生方がふだんどう思っているのかというあたりも聞きたいし、子どもたちの様子も知りたいということで、やはりこういった話し合い等が必要でないのかなということですね。そして地域は学校にどんなことを求めているのかということですね。言うと、やはり地域の方々の行事とかそんなものにこれまでどおり子どもたちが積極的に参加してほしい。再編してからは例えば岐尼の子が歌垣に行ったり、東郷の子が岐尼に来たり、そういうひとつの今まであまりなかった動きも実は出てきております。そこは能勢を一つ「オール能勢」ととらえて、能勢全体を一つの学びのフィールドとしていくということもあるのですけれども、そういうような方向で丸ごと能勢の子どもたちを受け入れるような旧小学校区の行事にも子どもたちが参加するようなスタイルになってくると豊かな姿になってくるのかなということと、やはり小学校区は小学校区で伝統文化ということも逆にあると思うんですけれども、そういったところの地域からの要望もあったと思います。

最終、コミュニティ・スクールでめざす学校として、これからこちらの資料にもあるのですけれども、やはり、この裏のページをみていただけましたら、右の1番のところにコミュニティ・スクールの仕組みと書いてます。この中に学校運営協議会というものがある中で、そのなかの委員さんは例えば保護者であったり、地域の皆さんであったり、もちろん校長先生もいらっしゃるんですけれども、そういう運営協議会がまず、能勢の子どもたちにどんなことができるのかな、どんなことをしたら能勢の子どもたちが育っていくのかな、というようなこととお話をしたりして、校長先生は学校の運営方針とか、教育課程の勉強のこととか、そういったものを学校で決めたことをこち

らの方に説明をして、学校運営協議会の方はそれを承認していくというところの手続きがいきます。そういったものが集まった組織が学校運営協議会なんですけれども、能勢の子どもたちのまるごと応援団という役割をしていただいたらいいのかなと思いますので、子どもたちをいかに育てていけたらよいか。真ん中の図はこれまでの学校と保護者の関係、地域との関係は学校をそれぞれ保護者や地域が支援した学校です。

でも、コミュニティ・スクールというのは、真ん中が児童生徒になっているんですけれども、児童や生徒を育てていくために、学校と地域と保護者が手をつないでパートナーとなって、連携・協働しながら子どもたちを育てていくことによって、下のようなメリットが5点ほど書いてあるんですけれども、一つは地域の大人に見守られている安心が高まる、2番目には地域への愛着とか、誇りが高まる、3番地域への担い手としての自覚が高まる、4番自己有用感自分が誰かの役に立っているなという気持ちになれる。5番地域や学校での学びの深まりが広がるというようなことを、コミュニティ・スクールを導入することによって子どもたちに期待したい気持ちになってくるのかなと思っています。

次のページはチラシなんですけれども、この2月24日に地域の方々に集まっていただきながら、各団体の方にも声かけをさせていただいていますが、コミュニティ・スクールって何？ということで能勢の子どもたちをみんなで丸ごとどんなふうに育てていけたらいいのかなというところで、こういった話し合いの場所を設け、話を詰めていきたいと考えております。

ということで一つ法律が変わって、この29年3月1日の法改正でコミュニティ・スクールが努力義務ということで、前より段階があがりました。全国でも今360校ということで増えておりますけれども、今後益々コミュニティ・スクール化に日本全体がなっていくんじゃないかなと思うわけなんですけれども、要は能勢の子どもたちをどう育てていくのかということと皆さんと一緒に話し合いながらやっていく学校づくりでありますので、またご理解いただいて、またこれ何やということがございましたら、ご説明も伺いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でコミュニティ・スクールの説明を終わります。

会長	はい、ありがとうございました。只今、学校指導課より案件②につきましてコミュニティ・スクール（学校運営協議会）につきましてご説明をいただきました。只今のご説明に対しまして、ご質問ありましたらよろしくお願いいたします。
会長	ありませんでしょうか。要は、学校運営協議会、この頃、たくさんいろんな新しい言葉も導入されております。やっぱり、学校に直接関係のある方にとりましては耳に慣れてくるのですけれども、ちょっとそういう子育てから卒業された方へは耳慣れが悪うございまして、地域でもそんな話がでておりますので、そういう面についてはいろんな

	<p>場でこれはこういう意味ですよと、私たちも含めて皆さんにお伝えすればいいなと思います。</p> <p>ご質問ございませんでしょうか。一年間基本的な取り組みの基を作られて、来年度ですね本格的に動き始めるんですね。先ほどから一番最後に5点ほどこうありたいなという説明がありましたけれども、もっと他にこういうことも入れてもらったらいいんだよということも、あったらまたここでお示しいただいたらと思います。</p>
会長	<p>ございませんか。</p>
三浦委員	<p>新しい取り組みは制度化のなかで行われ、地域を大事にしたり、子どもの将来的な考え方、育てるという意味では、みんなでやろうかという目的があるかだと思います。そういったいろんな方法があるわけなんですけれども、能勢町として6校が集まって一つのところで展開していく教育。しかしながら、地域に返していかないと太刀打ちできない実態があるという、私も幼稚園のなかでみていると6校に限らず、私は広域のなかで子どもを見ているわけなんですけれども、休み中における子どもの事情とか、親の就労の状況だとか、いろんな問題をひっくるめて実際に子どもがそれを言葉は少ないですけれども、大人の考えで環境を設定して全国へ展開してコミュニティ・スクールを作る法律化をしていって、実際にそのなかにおろしていかれるときに、いろんな問題点を抱えて引き受けていく子どもたちは小さな子どもなんです。そこをどう保障してあげるかというノウハウが、個別政策として少し興味があることだと思います。内容はしっかりよくわかりました。</p> <p>教育はすべて平等であるという考え方のなかで、各教育委員会とかの考え方とか、宿題の分量だとか、学習計画というところはバランスがどこを視点に書かれているのか、子どもに夏休み、冬休みに一番何がいいの、一番いいことってなあととか、彼らの頭のなかは100パーセントとは申せないんですけれども、行事とか地域行事とかはかすめているわけなんですけれども、そのなかにもいつもノルマ的に感じているのが宿題なんです。子どもにとって大事なんです。それをどういうふうに消化していくかという手立ては大人が少しずつ方法を考えてやらないと、宿題の出し方とか、学習的にカリキュラムがあってそれを子どもに出していくそれでわからないとこがあれば質問して少しずつ分かっていく。アフタースクールの問題に含まれていると思います。勘違いしているかも知れませんが教えていただきたいのですが、コミュニティは人材確保でもあろうかと思います。コミュニティ・スクールになると同じ同格の問題として扱いを受けるのかどうか、地域の方がボランティアという意識で来るのか、そのボランティアの資格というのはある程度の意識がないと子どもを潰してしまう。子どもの育ちを潰してはいけないと思っています。今大事な子どもが学ぶ時期は、きちりと政策をもっていろいろな視点をもって育てていかなくてはならないと思っています。</p> <p>先ほども辻課長さんがおっしゃっていましたが、先生方の仕</p>

	<p>事の多忙さがどこで回避されるのであろうかと、いろんな問題がかすめましたのでちょっと長くなりましたが、学校教育は私は子どもは宝だという言葉は実証実践をやってなければ、小泉さん前総理大臣がおっしゃった、やっぱりそこらへんのね米百俵の話なさったですよ、米の話、やはりそれほど大事なものなんだと今日の話は。となると、私たちはこのような小さな地域において実践可能な問題や、小さなコミュニティ、地域の児童館であったり、地域の子どもの公民館活動であったり、学校に行かなければいけないんだという足の不便さ、交通手段がないんですよ。だったら地域でしっかりと支えられるそういう制度、制度ではなくて制度にしちゃうから難しい、少し優しい取り組みを学校が指導的立場で計画を立てて地域に出していく方法もあるかと思えます。</p> <p>以前の教育は素晴らしかったと思います。新しい教育のたびに先生も戸惑ってしまうし、横文字がどんどん飛び出す時代、世界はそういう方向をめざしているので、私たちもめざさないといけないと勘違いしてしまう。その辺のプロセスを踏まえて、能勢町独特の教育のコミュニティ・スクールが誕生するのではないかなと期待しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。先ほどからもありましたけれども、コミュニティ・スクールも含めた全体の話だったと思いますけれども、大人たちが良かれと思って、地域の大人であり学校の先生であり親でありすべての人たちが子どもにやってほしいという願いでいろんな計画をたくさん立てられるけれども、この計画がはたして子どもにとってよかったな、僕たちも楽しかったなということにつながるだろうか、ということ考えたなかでの能勢町の能勢町独特の教育ですね、そういう子どもによかったなあ楽しかったなあそんな教育をめざしてほしいという願いを園長先生はお話くださったかとは思うんでしょうけれども、そういうことで大人のこれはいいこれはいいという考えが果たして子どもたちにどうだろうかということもちょっとクエスチョン(?)をもった能勢町の教育を願いたいということですね。</p>
三浦委員	<p>そうです。</p>
会長	<p>はい、ということで、いっぱい私たちは子どもたちに願いをもちます。でも子どもたちはひょっとすると、もう学校休みになったらゆっくり寝たいしと思っている子もいるかもわからないし、なかには休みはえらいことですわというのは昔からあるんですね。大人の思いが子どもたちにいかに伝わってその熱意とそして子どものしたいということが一致すれば、言わなくてもそこへ飛んでいくはずなんですね。そんな意味のお話を含めて、こういう新しい計画もありがたいけど、ちょっと子どもたちの思いや願いもということが含まれていたと思います。</p>
事務局（学校教育課）	<p>今でているボランティアとかの問題については、例えば、今国の方で始まった部活動の指導員の問題も次年度導入していくような予算組みを考えていきたいなと考えていますし、あと先生方のサポート、毎</p>

	<p>月、先生方の時間外勤務のところを校長会にもお話をさせていただいたりとかするなかで、日々話し合っています。あと学習支援者といいますが、ボランティアの方々についても、今すごく新しい学校になってからも引き続き学校サポーターになっていただいている方もいらっしゃるし、拡大をしていくような取り組みもしていただいていますけれども、なかなかそのことが能勢町の方にすべて伝えられきれているかという課題もあって、この間、学校のホームページが28年10月にできまして、今現在2万5千ぐらいのヒットというか、みていただいている形になっています。今まででしたらその地域で行われた、歌垣小学校でしたら歌垣小学校で行われたことが、歌垣の皆さんには伝わった、でも久佐々の人は知らないということが多かったかと思えますし、岐尼でやっていることが東郷の方は知らないということがあったかと思えますけれども、やはりこういう学校が一つになったことによって、それぞれその辺の共有というか、子どもたちと能勢全体での発信というか、その場所で知っていくことも十分必要なのかなと感じておりますので、また学校のホームページも更新もされておりますので、ぜひみていただきながら今の課題を一緒に話しあっていく課題づくりが一番必要なのかなと考えておりますので、幼稚園の課題と小中学校の課題は同じなのかなと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>どうもありがとうございました。ほかに只今の件につきまして、ご質問ありませんでしょうか、ございませんか。それでは今日は、案件③のグループ討議に入らせていただきたいと思います。初めてのことでありますけれども、只今事務局の方からご報告をさせていただきました、子どもの創る明るい未来推進事業のこれまでの取り組みの状況や、コミュニティ・スクールにつきましてご説明をいただきましたけれども、ただいまお話いただいたことや、あるいはこの会議も2年目になっておりますけれども、この子ども・子育て会議のメンバーのなかで様々なご意見や課題等をいただいております。今日はそのことを踏まえまして、先ほど来から事務局から説明のありました平成30年度に向けた取り組みの方向性、事業展開の内容等につきまして、時間は限りがあるんですが、少しグループで別れましてお話し合いをもっていたいただきたいと思います。そのことに関しまして事務局から補足の説明をいただきたいと思います。</p>
<p>事務局（福祉課）</p>	<p>はい、すみません、グループ討議の方に移っていただくんですけども、昨年度も第3回の会議においてこのグループ討議を行っていただきましたので、同じような形にはなるのですが、お手元に参考資料1ということで本日の出席いただいている方の名簿をつけさせていただいております。こちらにグループでAグループ、Bグループということで、事務局の方で勝手にグループ分けをさせていただいているんですが、そのグループに分かれてお話の方をしていただければと思います。席の方はこちら側がAグループ、右側がBグループになりますので、ご足労ですけれども席の方を移動していただけて分かれてお話をさせていただけたらと思います。</p>

また、各グループではファシリテーター役として A グループは西村所長、B グループは辻課長がファシリテーターとしてグループ討議を進めていただくことになっていきますので、よろしくお願いします。

また、先ほど会長の方からグループ討議をどのようなこととお話していただくのかというところで説明がございましたけれども、資料1でご説明をさせていただきました子どもが創る明るい未来推進事業におきましては、先ほど私が説明をさせていただきましたように切れ目なく続く教育と福祉の連携、地域とのつながりという3つの視点で事業の方を展開させていただいております。で、辻課長の方から説明がありましたコミュニティ・スクールの資料のなかにも学校、家庭、地域が力を合わせ一体となり、それぞれの立場で主体的に地域の子どもたちの成長を支えていくというようなことが記載をされております。どのような形で能勢町において子どもたちを支えていくのか、子どもたちの支援をしていくのかという視点で、昨年度のグループ討議のなかでも能勢町の行政では把握ができていない地域での取り組みがこんなありましたよとか、というようなことも情報提供をさせていただいてそういうところとのつながりも大切ではないのかなというご意見もいただいたところでございます。委員さんそれぞれこういう町が今取り組みをしておるんですけども、こういう視点が抜けているのではないのか、地域とのつながりではこういうころがあってもいいのではないのかとか、ご意見を出していただけたらなと思っておりますので、よろしくお願いしますをいたしたいと思えます。時間の方ですけども、限られた時間ですので11時半を目途に今から20分間分かれていただいて討議の方をしていただけたらと思えますので、よろしくお願いしますをいたします。

それでは、それぞれのお席の方で、話し合いをいただきたいと思えます。Aグループ、Bグループよろしくお願いします。

	グループ討議〈20分間〉
会長	はい、それでは、ほんとに短い時間で、今から話そうか思ったときにもう終わりということでございまして、話し合いの内容を発表していただくのはたいへんかと思われませんが、それではまず、Aグループの発表からお願いします。
事務局（辻ファシリテーター）	Aグループでは、それぞれご自身の立場でご意見をいただいたかとは思いますが。一つは子どもたちの放課後、習い事をしているときに、習い事をするために家に帰っていたらなかなか習い事に行けないところがあるからバスの問題なんかならないかとか、また、いろんなところでバスの問題は様々でいる問題かなと思えます。それから、子育てつながり支援事業で5歳児検診が提案されていたんですけども、今は1歳児半健診と3歳児検診ということですので、就学前の年長さんの健診となっているので、できたら4歳児検診もしてほしいと毎年毎年あったことで保護者が母子手帳や、子どものことを振り返る

機会にもなるので、そういうものはできたら4歳児もという意見もございました。それから、地域で子どもたちがすごく守られていることが多いので子どもたちから何か実際に地域の方に返すような事業といえますか、生徒や児童が地域のお年寄りの方の家をご訪問したり、声をかけあったりだとか、老人ホームなんかはどうなのかとか、あと登校班のなかでもやはりこれまでなら上の子が下の子をみていくようなシステムがあったんですけども、バス通学になり、そういう場面もなかなか見れなくなった地域も東側なんかは多いのではないのかなと思います。やはり、当たり前になってしまっている。今までおはようとか、がんばって行ってきてねとか、みんなに声をかけられて挨拶してきた状態がその場所だけのことになってくるので、何かそういうことを違う形で見守っていく人たちとかに何かお返しできるようなところができました。ですので、例えば、地域のお宮さんの掃除とか、そんなところに子どもたちが手を貸してもらえるとうれしいなとか、その辺のことも地域の方が声をかけていただいたら、子どもたちも来るんではないかなというご意見もあたりなんかして、その地域と子どもたちの関係、だれが声をかけるのかというご意見もございましたので、学校から行やということがいいのかどうか、地域のなかから声をかけていただいて、子どもたちを地域の行事に呼んでくるというようなそんな仕組みづくりが大切ではないかなとご意見も出ておりました。ほかにも何かあったと思いますけれども、概ねこのような意見がだされたものと思います。以上です。

会長	すみません。続いてBグループから発表をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
事務局（西村ファシリテーター）	<p>Bグループの方も、それぞれの皆さんのご意見をいただいた形で報告をさせていただきます。まず、学校のコミュニティ・スクールをされていますが、今までは学校だけであつたら学習面や子どものことだけであつたところが、こういう形で各機関がそこにかかわっていただけることで、学校だけでは踏み込めなかつた家庭のなかとか、そのご両親のしんどさとかそういうところに踏み込めて子どもたちとかかわりを持っていくことができるようになって、1校になってこういう形になって勉強になったというところでご意見がありました。</p> <p>また、小中学校が終わり高校に入るときに今の高校生は経験がなければ、すごく個人的というか考えが狭いというような方が多いとおっしゃってましたので、高校とかに上がる前に小さい時から地域の方とたくさん人とふれあつて広い考え、いろんな人がいて、広い経験をさせてほしいというお話がありました。</p> <p>いろいろこういう制度を進めていくなかで能勢町はとってもすばらしくて、能勢の子育てはこれからどんどんスムーズに流れていくことに、すごくわくわくする気持ちで聞いてましたというお声があつて、「ほっこり」で家庭教育支援事業では対象は3年生まで訪問していただいているんですけども、そのなかで見えてきたしんどさをもっているご家庭は、そこで親しくなつた相談員さんとのつながりも、そこ</p>

で断つんではなくて続けていけたらなというお声もありました。で、コミュニティ・スクールで子どもたちにかかわっていただく地域の方の人材の大変な部分もあるのですが、子どもが経験したときどんな気持ちでそれを体験しているのかという子どもの気持ちも聞き取ったりだとか、その部分を大事にさせていただけたらなというお声がありました。

ほかには、貧困とか問題が個々の問題であってもそれを個々の方だけにかかわって、問題を解決にしてもそれは解決につながらないというか、その個々の方をとりまく地域全体に取り組みをすると地域がそれを活性化というか、問題もよくなっていくという努力も必要ではないかというお声がありました。

保育所のお世話から学校にあがるまでのなかでたくさんの地域の方と触れて、地元から各地域の方とかかわりをもって小学校にあがらせてもらって、そこでまたコミュニティ・スクールとかで知ったおばちゃんがいるはったりだとか、そういうつながりを引き継いでいけたらなという話もさせてもらいました。能勢でいろいろ保育、教育の分野で専門的な分野でみるところは違うが、めざすところは一つなので能勢の子育ての制度としてはすばらしいものになっていくのではないかなということ、そして、今までは学校が子どもたちに出されている宿題とか、一律にここからここまで明日までの宿題として出されてしてくるなかで、得意な子はすぐできるでしょうし、わからない子は1問、2問で躓いてしまう子もあるでしょうし、そこで子どもが受ける達成感という気持ちの経験というところをみつけてあげるやり方も必要ではないかなというお話をされていまして。よろしいでしょうか。

会長

どうもありがとうございました。討議する時間が十分ないなかで、小集団だから自分の思っていることが大きな集団では出せないけれども、ここで出せたということが今日の大きなグループの話し合いのまとめになろうかと思えます。ご質問はいかがですか。特にBの方の最後のまとめのものは、こうして子ども・子育て会議でこんなお話をさせていただいて、これから子育てするのはなんかわくわくするなあ、というよいところを十分に吸収をさせていただいて、みんながわくわくしていただけるような、今後そういう子ども・子育て会議に発展をできたらと思えます。何かご意見ございませんでしょうか。それでは意見ほんとうにございませんか。でもこうやってお話ができるということは素晴らしいことだと思えますし、良いことは大いに皆で共有して自分の力を出せる部分で出していけたらよいと思えます。それでは、グループ討議短い時間でしたがこの辺で終わらせていただきます。ありがとうございました。

続きまして、次の案件④その他につきまして事務局の方からよろしくお願いをしたいと思います。

事務局(福祉課)

すみません。案件資料1の説明で、1ページ目いつも応援カードを作らせていただきましたということでご報告をさせていただきました。それで、わたくしの方で資料を作るときにデータが切れてました

	<p>ので、今、会長、副会長にお渡しさせていただきましたけれども、そのような形になっておりますので、委員の皆様に見ただけだと 思います。よろしくお願いをしたいと思います。</p>
会長	<p>はい、そしたら、その他のところで先ほどの補足ですね、こういう カードということなんですけれども、いろんな機関、保護者が行かれ る機関においてあるということですので、これをもてば、こんなとき はこうしたらいいなということが簡単にできるようになっているので すね。</p>
事務局(福祉課)	<p>いずれそのカードに、先ほど説明をさせていただきましたが、付加 価値をつけさせていただいて、展開をできたらと思います。今は周知 だけのカードになっていますので、こういうことがあったらご相談に のっていただきたいなというようなことで、こういう子どもの未来応 援センターがありますよという周知のカードです。よろしくお願いま す。</p>
会長	<p>いかがですか。これを配られてこれをみましたというのがありまし たらか。</p>
事務局(福祉課)	<p>家庭教育専門員の古嶋です。このカードをもちまして猪名川だっ たらこのカードをどこかお店にもっていったらなんか特典があるとかあ るのだけれども、能勢町はないのとか聞かれたんですけれども、それ はまたこちらの方で考えていきますという話をさせていただきました。 やはりカードがあったらイオンに行ったら、ここのお店がちょっ と安くなるとか能勢町だったら喫茶店にちょっと飲みに行ったとき に、子どもさんと一緒にお母さんがこのカードをもっていったらちょ っとランチのあとにコーヒーがつくとか、なんかそういうのが特典で できたらいいなというのを考えているところです。</p>
会長	<p>ということは、まだあんまりつかわれていないことですね。</p>
事務局(福祉課)	<p>これからということで。</p>
会長	<p>カードだけではみなさんまだ使っておられないと。なんかそういう 恩恵によって皆さんの活用も増えてくるんじゃないかということす ね。はい、わかりました。</p>
会長	<p>そのほか事務局何かありませんでしょうか。</p>
事務局(福祉課)	<p>すみません、そしたら今回は第2回目の会議でございますが、本会 議は年間3回程度開催させていただくことになっています。年度末ま で3か月余りとなっておりますが、皆様方も日々お忙しいなか申し訳 ありませんが、事務局の案といたしまして次回3回目の会議を3月2 8日水曜日を今のところ予定とさせていただきたく思っております。</p>
会長	<p>ということで、事務局の案でございます。3回目の日程案が出さ れております。3月28日水曜午前10時からですね、ということに なるかと思えます。ちょっとお子さんのお持ちのお母さんにとって は、子どもたちが学校お休みのときなんですね。やはりちょっと出に くいのかというのがありますが、今回は諸事情によりということ で一応28日に決定をいただきたいと思います。これ一応2年間終わ るんですね。また、次年度からはそういうことも踏まえてできたら皆</p>

	さんの出やすいときにご検討いただくことを期待をいたしたいと思 います。
事務局(福祉課)	どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。
会長	そのほか何かご意見、今日、こんな機会だからということで何かご ざいませんでしょうか。ご意見、ご感想でも結構でございます。
会長	ありませんか。それではご意見が内容でございますので、この会の 閉会にあたりまして、榊山副会長より閉会のお言葉をいただきたいと 思います。まとめも併せてよろしくお願いいたします。
副会長	<p>どうもおつかれさまでした。まとめれるほどうまくしゃべれないか もしれないんですけども、今日、いろいろとお話を伺いまして、い くつか思い当たったこととかを併せもってお話したいとおもいます。 まずは、いろんな取り組み、Bグループでも話が出たんですが、わく わくするということがこれがうまくいってきたら、そのうまくいく方 向にどんなことがあるのかなと思ったときに、能勢町でもともと培わ れているネットワークとか人のつながりというものがやはりすごく豊 かなので、それらがうまくいくのではないかなというような感覚をも っておられるのではないかなと思います。</p> <p>また、先ほどの岐阜県に行かれて、十年後を見据えた活動をしてい きたいからということをおっしゃったんですけども、能勢町は今さ らという感じで、たぶんもう十年以上も培ってきたものが今あるので、 それらをすごくうまく活用されていければほんとにいいのではない かと感じながら伺ってました。</p> <p>ちょっと小さな話になるかもしれませんが、宿題の話とかもこち らのグループでも出てたんですが、やはり子どもが自己有用感が高ま るといので、例えばメタボ対策で大人がやせるためにはどうしたら いいのかとしたときにも、やはり自分はできるんだっていうことを得 ないことには、ステップアップして生きるっていうことがなかなかで きないですね。そういったときに、例えば、面談で私、水を飲んだだ けで太るんですけどおっしゃる方が、この間聞いたら半数以上いるん ですね、水を飲むだけでは絶対人は太らないですけども、やっぱり信 じ込んでいる人がいるんですね。この人がそこまで思うほどに頑張ろ うと思っているんだと本人の思いに寄り添うという、そういうかわり 方が大事でして、結局は子どもの宿題にもできないというのは、そ の本人の気持ちにたって考える、教育のなかでは当然かもしれない んですけども、そういったものが個別にあるのではないかなと思いま す。また、先生や親がそういう気持ちを高めていくことがキーワー ドかなと思います。</p> <p>いろいろと地域連携をしていくなかでも、子ども中心に考えるん ですけども、例えば、子どもがこんな状況にあるってなったときに、 つい親を責めてしまうというような価値観が違うこともよくあるん ですけども、めざすものが一緒なのに喧嘩になってしまうことがある、 それって相手の気持ちにたって考えることが欠けていることが多々あ りまして、相手がなんでこういうことを言うのだろう、お母さんどう</p>

してこういうこと言うのだろうとかなったときに、お互いに認め合う気持ちを持つだけで高揚力が高まっていくというような、ネットワークがどんどんできていくし、めざすものも一致してすすんでいくのではないのかなと思いました。

あと、さっき発表で言うてくださったのですけれど、医療の世界では多職種連携というのがすごくポイントになってきてまして、他機関がかかわることでもいままですと進まなかったことが進むことがあります。さっき校長先生がおっしゃったんですが、例えば1校になったことによって福祉の視点が入ってお母さんの貧困だとか、両親の関係だとかそういうものに、教育の立場からではない専門職から入っていくことで、それらがよくわかるように把握できるようになったりということ、やっぱりそのいろんなプロ同士がすべての視点でかかわったりとか、プロではなくても地域の人たち、地域のプロなのでそれぞれが連携するということ自体はすごく大きなものになるんだなと思います。

あと、アプローチの仕方で、繰り返して恐縮なんですけれども、ハイリスクの生き方、例えば虐待になりそうだとか、三角の上の方だけにアプローチをしてそれを解決していくというハイリスクアプローチというやり方と、三角の下の方からしていくやり方がありまして、医療のなかでたとえば高血圧の人がいるとすると、この町高血圧が多いなとなったときに、高血圧の人たちをよい薬を飲むとか、この集団に対して保健指導するとかのやり方もあるんですけれども、それよりも町全体でたとえば減塩を取り組んでいこうとか、環境をつくってちょっとレストランとか働きかけて地域でしていこうとか、ちょっと底上げをすることで、全体の人たちがより健康になるし、この山の氷山の人たちもより健康にシフトしていくというようなやり方があって、どっちも欠けてはいけなくて、両方のやり方が大事といわれていて、今回の施策をいろいろ伺っているとその両方の施策をうまく活用されていて、元気な子どもたちも集まってやるし、そのなかにハイリスクのちょっと支援が必要な子どもたちもうまく連動させていくことで、いい方向にみんながいけるというやり方をされていることが、うまくいきそうな部分なんだなと思いました。

あと、これからが楽しみだなと思ったのと、こういうことをすることによって、点でみていたものが、時間軸でその子のライフコースで、小学校に入学させる前から例えば5歳児検診を始められるとしたら、やはり就学することによって、つい情報が途絶えてしまうのがあって、その子の特徴を早くつかんでということがうまくいくようなことになっていくでしょうし、そういうふうに線でみるような仕組みを作ると、あとそれらを地域と面で作るのと合わせて、子ども・子育て会議ではあるんですが、高齢化とか介護予防とかすごく町の大事な課題でもあると思います。

この子育てにかかわる人自体も、町全体が例えば高齢化施策と連動しているようなもの、例えば子どもを見ることは高齢者の方にとった

らすごくいい機会だったり、それらがまたずっと町全体がよくなっていくそんな視点を持ちながら、いろんな専門職の方々がなされていったらいいなと思いました。ちょっと長くなってしまいましたけれども、これでまとめとさせていただきます。

会長

それでは12時ちょうどとなりました。3回目の会議は3月28日です。また皆さんにお目にかかれることを期待いたしまして、皆さんが素晴らしい年をお迎えになられることを願ひまして今日子ども・子育て会議を終了させていただきたいと思ひます。どうもありがとうございました。